

すべての子どもの可能性をひらく 保育者になるために



東京家政大学 子ども支援学部 子ども支援学科

Department of Education for Childcare
Faculty of Child Development
Tokyo Kasei University



学科ホームページはこちら



Instagramはこちら

子ども支援学科

すべての子どもの可能性をひらく
保育者を育てる



2014年、
狭山キャンパスに子ども支援学科が誕生しました。

本学科は、東京家政大学の伝統に支えられながら、
「すべての子どもの豊かな可能性を引き出すことができる」
保育者の養成を目指して開設されました。

現代においては、多様な社会を尊重しながら、
さまざまな子どもたちとの共生を実現する幼児教育・保育が求められます。

本学科では、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得はもとより、
多様な保育への適応力を身につけるために、
特別支援、健康保育、更には芸術や文化の素養を修得するための
カリキュラムを充実させています。

めまぐるしく変化する現代社会の中で、
次世代の多様な子どもの育ちを伸長する教育・保育に必要なものは何か。
その問いに向き合いながら、常に新しい教育を探究し、
未来を見据えた人材育成をこれからも続けてまいります。

子ども支援学科

学びのカリキュラム

本学科では「子ども学」学士を修得するために、「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」を原則取得としています。また選択科目として「特別支援教諭一種免許状」が取得可能な「特別支援科目群」、医療への知識・理解の深い病児保育士や病棟保育士を目指す「健康保育科目群」、子どもの多様な表現力を引き出すための「子ども・芸術文化科目」を開設し、多様な子どもに対する保育実践力の育成を目指します。



特別支援教育が学べる!

特別支援科目群

知的障害・肢体不自由・病弱に対応することを中心に、視覚・聴覚・SLD（限極性学習症）・ADHD（注意欠陥・多動症）などへの支援ができる人材を養成します。

*特別支援学校
教諭1種免許状
R4年度36名取得

更には、特色的な資格である「臨床美術士」、「ダルクローズ・リトミック エレメンタリー（初級）免許」、「アタッチメントベビーマッサージ・インストラクター」、「育児セラピスト」等のさまざまな資格も取得可能な専門科目を配した充実したカリキュラムが構成されています。

子ども学

医療保育が学べる!

健康保育科目群

乳幼児の心身の健康をより確実に促進できる能力を身につけ、病気や障がいのある乳幼児などにも、きめ細やかな存問的対応ができる人材を養成します。

*アタッチメントベビーマッサージ・インストラクター
*育児セラピスト



遊び・アートが学べる!



子ども芸術・文化科目群

子どもに関わる「遊び・芸術・文化」についての学びを深めるため、臨床美術やリトミックなど、多角的に子どもの表現活動を援助できる実践力を養成します。

*臨床美術士 R4年度33名取得
*ダルクローズ・リトミック エレメンタリー（初級）免許 R4年度18名取得

魅力ある授業の紹介

Pick
Up

幼稚園教諭免許・保育士資格を取得をするために子どもに関わるさまざまな知識・理論を学び、保育者に必要な実践力を身につけていきます。ここでは、免許・資格関連科目の一部を紹介します。



子どもの音楽

あそびうた、楽器あそび、こどものうたの伴奏、弾き歌い、リトミックなど、子どもの音・音楽遊びについて実践をとおして学びます。



保育原理

保育の基本、理論と実践について、国内外の歴史や制度をふまえて学びます。子どもの権利について、グループで話し合い、理解を深めたりもします。

子どもの健康と安全

保健的観点を踏まえた保育環境や援助について学びます。自ら妊婦体験をして、危険なことや生活上の不便などを体感し、保育者としてどのような援助、安全対策ができるか考えます。



保育内容 「健康」の指導法

学生たちが園児・先生・保護者になりきって、全力で運動会を再現します。保育園での運動会は、子どもたちの発達や社会性を育む大切な行事。保育者としての指導力・安全管理の視点を体感的に学びます。



教育実習指導（幼）

各自が作成した部分実習指導案を見合った後、責任実習での主活動の指導案を作成して、グループに分かれて模擬保育を行います。模擬保育後には友達同士で検討をして、良い所や改善点を伝え合います。



子どもの造形

子どもの発達を踏まえた上で、創造力豊かに表現するための理論と実践を身につけるために、さまざまな造形制作を演習により学んでいきます。単なる技術ではなく、「自分なりに表現する」ための保育内容について考えていきます。



保育内容 「人間関係」の指導法

子どもが発達とともに、人と関わっていくためにどのような力を育むか、保育者の援助について学んでいきます。授業の中では、ふれあい遊びについて、ぬいぐるみを赤ちゃんに見立てて、どんな関わり遊びができるかイメージを膨らませます。



保育・教職実践演習



4年次に保育所、施設、幼稚園での実習の学びを総括していく授業です。グループごとにポスターにまとめて発表し、学びを共有していきます。各グループのそれぞれの着眼点が光る発表に、お互いの学び合いが深まります。

乳児保育学内演習

3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わり、生活や遊び、保育の方法などについて、具体的に学びます。キャンパス内の保育園「かせい森のおうち」での1年次実習を通して、実際の子どもと関わりながら、保育の専門性や魅力について学んでいきます。



特別支援科目群

なぜ、子ども支援に特別支援教育が必要なのでしょう？

幼稚園や保育園、こども園にはさまざまな子どもが通っています。気になる子どもや、視覚・聴覚・知的障害児、肢体不自由児、病弱の子ども、発達障害の子ども、重度・重複障害の子どもなど、そうした子どもたちに対応できるように特別支援教育について学ぶことは、保育現場で活かせる力になるでしょう。



本学科では、選択科目を履修し、特別支援教育について学ぶことができます。特別支援教諭一種免許状を取得するためには、幼稚園教諭一種免許状を取得（見込み）した上で、特別支援に関する26単位を取り、教育実習を行うことで特別支援学校教諭一種免許状（知的障害・肢体不自由・病弱）を取得することができます。

特別支援科目群（特別支援学校教諭一種免許教職科目）

知的障害児教育総論	知的障害児指導法	知的障害児の心理・生理・病理	特別支援教育概論
病弱児教育総論	病弱児指導法	病弱児の心理・生理・病理	重複障害・LD等教育総論
肢体不自由児教育総論	肢体不自由児指導法	肢体不自由児の心理・生理・病理	特別支援教育実習（事前事後指導を含む）
視覚・聴覚障害児教育論		視覚障害児の心理・生理・病理	
		聴覚障害児の心理・生理・病理	

特別支援教育実習に向けたスケジュール

学内での実習や実習報告会等を通して、学習指導案を作成するなど見通しを持って実習に臨めるようサポートしています。



特別支援の専門的な学び

肢体不自由児指導法

特別支援学校での授業内容や子どもの実態を想定しながら、子どもの理解を促すための教材を作成し発表します。

支援が必要な子どもたちのことを考えながら、楽しく学べるように色々な工夫がされた教材を互いに共有しあいます。



施設紹介



支援が必要な子どもをサポートするために必要な設備・環境にはどのようなものがあるのかを理解します。遊びを通して感覚の向上を図る遊具、移動機器など、充実した学習環境が整っています。

特別支援学内実習 放課後等デイサービスつくし

日本の大学内では唯一の「放課後等デイサービスつくし」が本学にはあります。

この施設では放課後、障がいのある小学校1年生から中学校3年生までの子どもたちが活動をしています。

活動内容は音楽、運動、絵画造形の3種類の支援となっており、学生は特別支援の授業で実習を行ったり、ボランティアにより、実際の子どもとの関わりから、特別支援のあり方についての学びを深めていきます。



健康保育科目群

子どもの健康と、 病児や医療的ケアが必要な 子どもの支援を考える

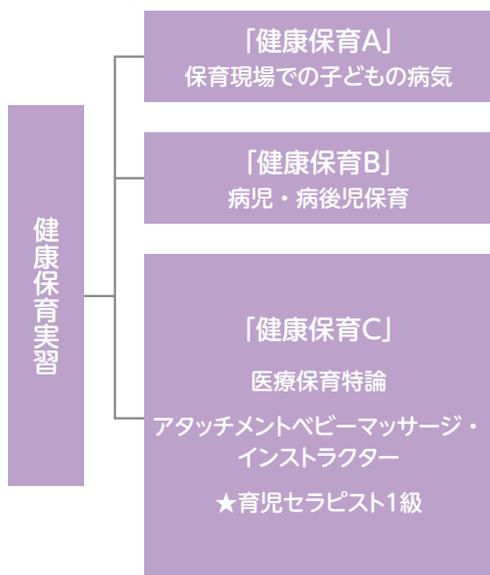
幼稚園教諭並びに保育士は、本来健康な子どもたちに接することが多いですが、健康児のみを保育の対象とするものではありません。さまざまな疾病や障がいを持つ子どもたちに対しても、保育の専門家である保育者は、適切な知識と経験を持って、他の子どもたちと同様に、その子どもが本来持つ可能性を発揮できるような保育を実践できることが求められています。



健康保育科目群のカリキュラム

健康保育科目群では、医療的な配慮が必要な子どもたちに寄り添い、心身の発達を支える視点を大切にしています。その一環として、「アタッチメント・ベビーマッサージ」、「育児セラピスト1級」の資格取得が可能な科目を導入しました。

赤ちゃんとのふれあいを通して、発達や情緒に丁寧に関わる力を養い、医療と保育をつなぐ実践的なスキルを身につけます。



アタッチメントベビーマッサージ・ インストラクター 育児セラピスト1級 資格取得のための科目

①	乳児保育	アタッチメント理論・基礎・応用
②	乳児保育学内演習	
③	子ども家庭支援の心理学	発達心理学・基礎・応用
④	子どもの理解と援助(教育相談を含む)	
⑤	子ども家庭支援論	社会学または子ども家庭支援
⑥	健康保育C(医療保育特論)	ベビーマッサージ理論・実習対人援助技術



アタッチメントベビーマッサージ・インストラクターとは

赤ちゃんと保護者との心のつながり（愛着）を深めるためのマッサージ法を指導できる専門資格です。講義では、ベビーマッサージの技術だけでなく、赤ちゃんの身体や発達、育児に関する知識を深く学び、育児支援職としての専門性を高めます。

育児セラピスト1級とは

子育て中の保護者に対し、乳幼児期（0～6歳）の子どもの発達や親子関係、育児に関する心理的支援や実践的助言を行う専門家です。講義では、発達心理学やコミュニケーション学、講座運営理論など、地域で活躍できる人材としての専門知識を、より深く実践的に学びます。



学内実習 かせい森のクリニック

本学には、学内附設の「かせい森のクリニック」が開設されており、小児・アレルギー科、小児神経内科の診療を行っています。

アレルギーや発達障がいをもつ子どもと保護者の支援を目的として、本学所属の医師（本学科所属教員を含む）が地域のお子さんの診察しています。

授業では、一般では見ることでできない診療場面、医療面接を見学します。

①小児が受診に至った過程、②医師の視診について観察、③受診時の親子のかかわりの観察、④小児の疾患と家族の心配や気持ちの理解、⑤医師や看護師が小児と家族に対応する様子、などから、医療現場でしか学ぶことのできない小児医療の実施をキャンパス内で体験します。



子ども芸術・文化科目群

子どもの主体的で創造的な 表現活動を共に楽しむ感性と 実践力を培う



子どもの感性を伸ばし、豊かな表現力を引き出すことのできる技術と応用力を身につけるために、芸術や文化を広く捉え、総合的な保育実践を学んでいきます。

芸術を活用した保育のアプローチや、臨床美術、リトミックなどの支援について、資格取得も目指しながら、汎用力を身につけていきます。

特色豊かなオリジナル科目

子ども芸術Ⅰ (子ども美術)

基礎的な学びの上で、より実践的な保育活動構成力を身につけるため、プログラム構成に関わる重要な視点について学びます。

キャンパス近郊の飯能山林に赴き、SDGs（カーボンニュートラル）について学んだのち、学内保育園の園児とのワークショップを企画していきます。

実際の保育活動実践によって、子どもの創造力や可能性を引き出す具体的な援助について、楽しみながら学びます。

子ども芸術Ⅱ (子ども音楽)

保育所、幼稚園、子育て支援施設など、保育に関わるさまざまな現場で行われている音楽表現の実際を知り、場や対象に応じた音楽あそび・活動を自ら考え、実践できる力をつける授業です。現場で実際に子どもの音楽指導、ファシリテーターをしている教員が授業を行います。



子ども芸術Ⅲ (臨床美術)

臨床美術は、絵やオブジェなどの作品を楽しみながら創ることによって脳を活性化させ、高齢者の介護予防や認知症の予防・病状改善、働く人のストレス緩和、子どもの感性教育などに効果が期待できる芸術療法です。

本学科では「子ども芸術Ⅲ(臨床美術)」を修得することによって、臨床美術士5級の受験資格を得ることができます。



子ども芸術Ⅳ (リトミック)

E・J=ダルクローズが考案したリトミックは、音楽を学ぶための教育法であり、同時に音楽を通して、人とのコミュニケーションや感性、表現力を豊かにすることを促します。

この授業を修得し、免許試験に合格することで、Institut Jaques=Dalcrozeの承認を受け、日本ジャック=ダルクローズ協会が認定する「ダルクローズ・リトミック エレメンタリー(初級)」免許を取得することができます。

遊びと文化

ジャンルを超えた、新しい文化や遊び、興味深い遊び文化に触れる機会とし、それらを体験しながら学びます。

さまざまなあそび体験を通して、今後の子どもの遊び、子どもとの遊びの幅を広げ、遊びの発想、展開力、表現力、応用力を身につけていきます。



多彩な専門性を持つゼミナール

子ども支援学科には、幼児教育・保育、福祉のほか、特別支援教育、健康保育、芸術・文化といった多彩な研究領域を持つ専任教員のゼミナールに3、4年生が所属し、関心のある分野の学びを深めています。(一部を紹介します)

福水ゼミ 小児神経学



福水ゼミでは、医療や障害に関する知識を深め、多様性をもった子どもの保育実践能力を高めることを目的として活動を行っています。ゼミ生の興味や進路を考慮し、小児科医療・療育施設の見学や実習も積極的に行っています。写真の小児神経科クリニックでは理学療法室で参加者全員が最新機器を使って“足と靴の相談”を体験したり、リハビリ前診察や不登校児童のデイケアを見学したり、病児保育室や就学移行支援教室で保育士から説明を受けたりと幅広いプログラムを経験して学びを深めることができました。

野口ゼミでは、保育実践や子どもの発達、保育材に関する理論と実際などについて学びます。

「未来屋書店さんとのコラボ!@イオンスタイル入間店読み聞かせ会」では、子どもたちがじっと聴いてくれる姿、保護者の方々との対話から多くの学びがありました。こうした実際の活動から、雰囲気にあわせた臨機応変なプログラムの運営方法や、絵本のレパートリーを広げるなど実践的な課題と向き合っています。

野口ゼミ 発達心理学



佐藤ゼミ

子ども芸術 (リトミック)



佐藤ゼミでは、「子どもと音楽」をテーマに研究を行っています。

子どもの発達を音楽の観点からとらえ、理解したうえで、研究のまとめとして、こどものための音楽作品の創作を行っています。

自分たちで考えた音・音楽あそびや音楽劇は、狭山緑苑祭、近隣の保育園や幼稚園、さらに地域の公民館での子育て支援の企画で行わせていただいています。

保坂ゼミでは、個人制作や共同制作を行い、日々造形活動を楽しみながら活動しています。また「もりのあーとくらぶ」では、かせい森のおうちの子も達と、季節に合わせたさまざまな造形表現活動のための企画、運営を担当し、実践力を培っています。例年8月に狭山市で開催される七夕祭りでは、七夕飾りをゼミ生で制作し、地域貢献に参画しています。

芸術を通して子どもや地域と関わり、学内外関係なく、さまざまな場所で活動しています。



保坂ゼミ
子ども芸術（臨床美術）

河野ゼミ 子ども環境学



河野ゼミでは、子ども環境学、保育実践学などのテーマについて、実践的・体験的に学ぶことを目的とします。活動としては、①文献や実践報告書の検討、②保育教材の体験、③自然体験活動、④郊外学習、⑤地域貢献活動を予定しています。保育教材の体験では、巨大シャボン玉や竹で水鉄砲づくり、ビニール凧などを体験しました。郊外学習では、狭山の里山の自然を引き継ぐ活動をしている施設や狭山丘陵いきものふれあいの里センターに行きました。狭山の自然について学んだり、狭山丘陵について学習したりして、狭山の自然に親しみながら、その素晴らしさを守り、継承していくことの大切さを学びました。

細井ゼミでは、フィールドを中心に活動しています。家庭的保育体験や各園のそれぞれ異なる特色のある保育を実際に自分の目で見て、肌で感じ、身をもって体験しています。

母子生活支援施設のフィールドワークでは、子どもたちが楽しめるようなゲームや製作を考え、実践しました。ミニゲームを通して子どもたちと関わり、コミュニケーションをとる中で、一人ひとりに合った関わり方の大切さを学びました。キャンドル作りでは、私たちの想像を遥かに超える子どもたちの素晴らしい発想から保育者としての視野を広げることができました。



細井ゼミ
健康保育（乳児保育学）



子ども支援の学びを活かす卒業生

保育士（公立）

成長の過程を見据えた保育を心がけています

子どもたちの成長にふれ、仕事のやりがいを感じる

公立保育園に勤務し、クラス運営、行事の計画・運営、日々の保育などに携わっています。シフト制で早番遅番があり、園全体では効率重視で仕事が整理されている印象を受けます。

この仕事のやりがいは子どもたちの成長を感じられること。今担当している5歳児クラスは、進級した春頃は一人ひとりの気持ちもバラバラでしたが、10月にあった運動会では一致団結してがんばることができました。「お父さんやお母さんにかっこいい姿を見せよう」と全員がやる気を持てたのは大きな成長だと思います。意外に感じたのは事務仕事の多さ。子どもたちの昼寝の間や降園後に作業することが多いですね。



埼玉県 公立保育士 勤務
K. M.さん（2018年卒業）

リトミックや造形手法など、実践的な授業が仕事で役立つ

大学で実践的に学んだことは、仕事でとても役立っています。例えば、ピアノを使ったリトミックや弾き歌い技術は、子どもが歌いたい曲をすぐに弾けるようピアノのところに大学で使った本を置いてあります。子どもたちが楽しむ制作についても、さまざまな造形手法をメモしたノートを見返して参考にしています。また、大学では話を聞く、受容するという姿勢がいかに大切かを学びました。これは、子どもも大人も同じです。否定せず、「そうだったんだね」と認め、受け入れることを意識しています。就職活動では、早い段階から公立保育園に絞っていました。そのため、2年次～4年次まで公務員講座を欠かさず受講し、学務課に赴いて先輩の体験談や就職試験の報告書を見て対策を立てました。面接対策もキャリア支援課で練習をして頂きました。

特別支援学校教諭

子どもの発達と障がいに合わせて育ちを支援する



埼玉県 特別支援学校 勤務
S. A.さん（2020年卒業）

聴覚障がいを持つ子どもの発達と言語習得を支援する

特別支援学校（聴覚障害）の幼稚部で5歳児の担任を務め、子どもたち一人ひとりの発達や聴力に合わせた個別の支援を行っています。特に力を入れているのは、言語の獲得に向けた支援。耳から言葉を覚えることができないため、物の名前や文字を意図的に伝えていく必要があるのです。子どもたちとのコミュニケーションでは、発声と手話に加え、絵カードなどの視覚情報を駆使しています。私自身も手話を勉強中。ろう者の先生が開催する手話教室に参加するなど、積極的に学んでいます。子どもたちの成長を間近で見られるのがこの仕事の魅力。自分が考えた支援が子どもとかみあい、成長の助けになれたときは喜びもひとしおです。

実践を通じて習得した手法や子どもへの接し方が今に役立つ

学生時代は、保育所や幼稚園、特別支援学校、放課後等デイサービスなどのさまざまな実習に参加しました。子どもと直接関わり、授業や活動を計画して実践した経験は、今もとても役立っています。

子どもに合わせて柔軟に根気強く対応する姿勢も、振り返ればこのときに学んだ気がします。また、子どもと接するときの目線や話し方、注目の集め方なども身につけることができました。

本の読み聞かせや手遊び歌、折り紙など、大学で学んだ幼児教育の技術や知識は支援を考えるときのヒントになっています。幼児教育を学んできた私だからこそできる提案は現場でも重宝されています。

今後は、小学校教諭の資格取得や、未取得の聴覚障害と視覚障害の領域追加も目指しています。

保育士（病棟保育士）



学校法人東京医科大学病院 勤務
M. K.さん（2018年卒業）

慣れない入院生活をおくる子どもたちが 安心して過ごせるよう寄り添っています

医師や看護師とも連携してストレス緩和をサポート

ケガや急激に病気の症状が現れた急性期の子どもたちが入院する、大学病院の小児科に所属する病棟保育士として勤務しています。0歳～16歳の子どもたちの食事や着替え、トイレなどの生活支援、遊びや勉強のサポートなどを行っています。子どもたちの多くが急な体調や環境の変化から不安やストレスを抱えています。医師や看護師の皆さんと患者一人ひとりの状況を共有し、体調に配慮しながらボールや工作で遊んだり、会話やキャンプで安心感を与えたりして、入院のストレスをできるだけやわらげるように寄り添っています。

大学時代のレジュメは今も大切な宝物

大学では病気や障がいのある子どもたちへの対応について専門的に学びました。小児科の医師でもあるゼミの先生からは、病気や障がいは誰もが持ち得るものであり、子どもたちの可能性を引き出す保育が大切だと教わりました。今は大学で学んだことを生かし、医師や看護師の皆さんのお力も借りながら対応力を磨いています。子どもたちの病状や体調によっては、思い通りの保育ができないこともあります。そんなときは大学時代のレジュメやテキスト、卒業論文を振り返るようにしています。

「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト」という資格を取得しました。今後も、子どもの権利が守られた優しい病棟スタッフになれるように、更なるキャリアアップを目指していきたいと思っています。

保育士（施設保育士）

幅広い分野の学びや実習が将来の選択肢を 広げてくれました

他職種と連携しながら重度障害の方を支援する

心身ともに重度の障がいがある障がい児・者のための施設で、保護、治療および生活指導を行っています。職場には看護職と支援職の区分があり、私のような保育士のほかに他職種の人と連携を取りながら、利用者の方の生活をサポートすることが主な仕事です。仕事のやりがいを感じるのは、利用者の方の気持ちが垣間見えたときです。言葉だけでなく、わずかな目の動きや反応を感じ取って、心と心で会話できる瞬間があります。「教育や福祉の道に正解はない」と教わったことを大切に、これからも相手の気持ちになって物事を考えていきたいです。



社会福祉法人日本肢体不自由児協会
心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園 勤務
K. N.さん（2020年卒業）

現場を知る先生の指導で特別支援教育への理解が深まる

大学では幼稚園教諭・特別支援教諭免許と保育士の資格・免許を取得しました。まず健常児の発達を知りたいと考え、卒業後は幼稚園に勤務しました。その頃やっていた手遊びや絵本の読み聞かせなどを今の職場でも行っています。成人の方は幼児と違う反応があるのかな、と心配していましたが、小道具を使って雰囲気盛り上げ、一緒に楽しんでいます。大学時代は、障がい児教育や肢体不自由児指導法などを学修し、特別支援学校での実習も行いました。実際に特別支援学校で働いた経験を持つ先生が、教科書に載っていないような現場の様子や、映像を見せてくれました。質問には熱心に答えてくださり、理解が深まっていきました。授業や実習で試行錯誤しながら取り組んだ経験が、模索しながら利用者に向けた支援を考える今の仕事に活かしています。

就職・進路実績

2024年度卒業生 就職率100%

1期生2017年度～8期生2024年度卒業生実績

子ども支援学科2017年度～2024年度卒業生のうち、約90%が保育所、幼稚園、認定こども園、特別支援学校教諭、施設や生活指導員、児童指導員、病棟保育士として子ども支援に関連した仕事に就いています。

幼保系、施設就職者
／就職決定者

89.4%

2017～2024卒業生 **874名**
就職決定者 **829名**

公務員保育士に
多数合格!

134名 合格

保育士として就職した
卒業生のうち、
公立保育士合格者数

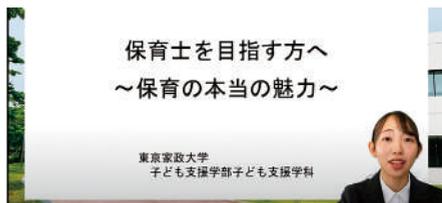
職種別就職先

保育士	487名	58.7%
幼稚園教諭	150名	18.0%
保育教諭	49名	5.9%
特別支援学校教諭	29名	3.4%
児童指導員	18名	2.1%
生活指導員	18名	2.1%
一般職	69名	8.2%
進学（大学院等）	20名	2.4%
その他	9名	1.0%

在学生と卒業生をつなぐ保育キャリアブリッジの共創

本学科の学生の就職キャリア支援は、学生自らが、本学科の学びを活かして、目標とする保育実践の場に就職するために活動していくことをバックアップしています。

今後は、これまでの本学科卒業生保育者による子ども支援の実際の営みを学生と教員が協働して実地に調査しながら言語化・可視化し、その成果を教材としてコンテンツ化していくことで、広く本学科教育に関心を抱く人々と共有できる学習教材として作り上げていき、新たなアクティブラーニングのあり方として体系化していくことを目指しています。



2024/10/26に開催した子ども支援学科シンポジウム「保育の魅力と保育を学ぶ魅力～狭山から発信する保育の真と新～」から、本学科学生が問題提起を發題した内容の要旨をまとめました。

保育士を目指す中高生、保護者の皆さん、また高校の進路指導部の先生方へのメッセージ動画となっています。

Check!

